



(株)ヒカリシステムは、千葉県を中心にホールチエーンを展開する、歴史ある会社（1976年創業）です。

2004年に、若い金光淳用現社長を代表取締役を迎え、社内を刷新、折からの厳しい経営環境にもかかわらず好業績を維持しています。

最近では、遊技場経営のみならず、ネットカフェやカラオケ店のなどの新業態の展開へと大きくその翼を広げています。

(株)ヒカリシステム

伸び盛りの企業だけに、社会貢献活動にも積極的です。3・11の東日本

大震災には、全社で被災地への義援金募集に立ち上がり、6月22日ま

での集計で49万2681円を集めました。これに会社からの義援金も加えて計138万1340円を日赤

仙台でのボランティア活動も



葉県本部を通じて支援を行ったそうです。お金を送るだけではありません。現地でボランティア活動に参加した社員も多かったようです。

仙台で、ボランティアに参加した市川駅前店の岡田裕輔さんは、「実際に被災地へ行ってみて、今回の震災の大きさ、深刻さを身を持って知ることが出来ました。現地の皆さんは大変な思いをしながらの生活の中でもボランティアの私達に明るく元気に接してくれ、その前向きな姿に心を打たれました。改めて自分も頑張らなければと強く思いました」と、語ってくれました。

清掃など「地域密着」で

今回の大震災では、福島原発の停止の結果、一般家庭も含めて「節電」が大きくクローズアップされましたが、同社ではCO2削減のため09年から節電に取り組んできました。その上にさらに求められる節電対策は、

本社、各店舗が熱心に取り組む地域清掃活動



さぞ厳しかったろうと思いますが、本年4月時点で対前年比22%、5月で同23%、6月で同33%の削減を実現したということです。若々しい企業体質だからできる、積極果敢な取り組みといってもいいでしょう。

そんな同社の社員が、身近で取り組む社会貢献活動は、だいたい月2回、本社並びに各店舗で、地域の清掃を行ったり、地域の催事などの支援や少年野球教室などのイベント開催などの活動を繰り返し行っています。本社が行う地域清掃活動には、会社幹部はむろん時には社長みずから参加して、社員とともに汗を流します。同社に入って、初めて社会貢献活動に参加したという今年2年目になる三咲店の捧一樹さんは、「入社前は、道端に落ちていたゴミなどはあまり気にせずに歩いていました。ヒカリシステムに入社し地域

貢献活動に参加するようになり、最初は嫌々参加していましたが、いつのまにか自分が清掃への意識が高くなっていく事に気づきました。また地域貢献活動をやっていると、よく地元の方々から「御苦労さま」とか「お疲れさま」とか声をかけてもらえたりもして、活動後は本当に清々しい気持ちになります」と言っています。

もともと、年がら年中、カチカチになって社会貢献活動にいそしんでいるかというところ、そうでもありません。合間には、研修会や消防訓練などがある一方で、社員同士の懇親会やカラオケ大会、チャリティーゴルフコンペなど、楽しそうな活動も盛りだくさんです。「ヒカリシステムにとってお客様と社員の存在は絶対のもの。同じ空間で気持ちよく遊び、気持ちよく働く」という同社の経営理念が、よくわかります。

